

画集刊行記念
50人のわたし
児玉晃の自画像展

2014年10月9日(木) - 11月9日(日)
9:00 - 21:00

休館日: 月曜日、10月14日、11月4日
(10月13日、11月3日は開館)

会場: 砂丘館ギャラリー(蔵)+1階全室
*1階和室は市民利用等で見学できない場合があります。

観覧料: 無料 / 主催: 砂丘館



「コンポジション」2005年 油彩、キャンバス 162.0×112.0cm

老年期。
年々違っていく「私の体」を
「絵」で見つめ続けた、
生命の記録。

砂丘館



財団法人 新潟県立美術館

死まで生きた画家



「あーんの自画像」2006年 油彩、キャンバス 45.5×33.3cm

縁あって、2度ほど児玉晃の絵——アフリカの人像を描いた油彩と、若き日の素描を新潟で紹介させていただいた。2003、4年のこと。

そんなことで、幾度か東京東村山のアトリエを訪ねた。最後の時だったろうか、思いがけないものをそこで見た。首を吊った姿を描いた自画像。リアルな絵なのに、不思議なユーモアに似たものが漂っていた。

2011年に児玉が病気で81歳で亡くなり、数ヶ月後、そのアトリエで遺作を見せてもらった。自画像は1点ではなかった。2点でもなかった。あるはあるは、若き日のものを入れて50点以上。静物、抽象、人物、風景と多彩なモチーフを描いた児玉だが、自画像は数でも断トツだった。

首吊り姿は2点。ほか人体標本や杖姿、作務衣の座像や痩せさらばえ腹をふくらませ仰臥裸像。歯を剥き出し、大口をあげるなど、表情も多彩。自らをモチーフにした戯画とも見えるけれど、描法は写真のようにリアル。なんともかとも不思議な気持ちになり、自画像だけを並べた展覧会が自分で見たくなった。あわせて自画像だけの画集制作も奥様の美子さんにお勧めした。

自画像は、時に素っ裸になった児玉の写真を撮るなど、美子さんの協力が少なからずあった。展覧会と画集作りにも全面的に協力していただけることになり、実現したのが、今回の画集刊行と記念展である。

自画像は大半が晩年の17年間に描かれたこと、難病を発症し、入退院をくり返し、薬の副作用にも悩む時期と重なっていたこと、いつもこれが絶筆になるかも知れないと語っていたことなどをその後知る。これら自画像群は、人生の最終コーナー、老と病が年々変化させていく人の体を見つめた定点観測にもなっていることに気付いた。写真にもとづくリアルな描写がその感を強める一方、制作の種々の段階で行われた操作や試行錯誤が、ただの記録とは違ったものにもしている。老と病、そして死。人が忌み、目を背けたがるものに、これほど果敢に向き合ったものは、あまり例がないようにも思えてきた。

どれも決して明るい絵ではないのに、見てると一点一点が新鮮で、新しく、どこか勇気づけられる。老も病も、死まで生きた児玉晃がここにいるという感じだ。

(大倉 宏／美術評論家・砂丘館館長)



「自画像」1950年
コンテ、紙 38.0×30.0cm



「絵を描く自画像」1999年
油彩、キャンバス 65.3×45.7cm

『50人のわたし 児玉晃の自画像』

80頁・カラー 図版50点／「老・病・死を見つめる <絶筆の連作>としての自画像群」大倉 宏／「自画像の思い出」児玉美子／1500円(予定)



砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1
tel./fax.025-222-2676
sakyukan@bz03.plala.or.jp

指定管理者
新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。●新潟駅からのバス:西循環(12・12A系統)又は観光循環バス「西大畑坂上」バス停下車徒歩1分
新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は、駐車券提示にて1時間分の無料券を差し上げます。

会期中の催し

ギャラリートーク「児玉晃と自画像の思い出」

10月26日(日)14:00-15:30

お話:児玉美子(児玉晃夫人)／聞き手:大倉宏(砂丘館館長)

参加費:500円(申し込み不要、直接会場へ)

児玉 晃(こだま あきら)

1930年岩手県北上市生まれ。51～53年岩手県立美術工芸学校、同盛岡短大美術工芸科で洋画を学ぶ。林武、松本竣介に惹かれ影響を受ける。54年東京に転居し財団法人日本色彩研究所に入所。55年から自由美術協会に出品。91年「人物K」が同展平和賞受賞。93年アレルギー性肉芽腫性血管炎(チャージ・ストラウス症候群)の診断を受け、2010年まで10数回の入院をくり返す闘病生活始まる。この年から制作を始めた自画像が最後には40以上に。色彩研究への貢献が評価され95年藍綬褒章、01年勲五等双光旭日章を受章。97年色彩研究所を退任後は多摩美術大学、女子美術大学、長岡造形大学等で講師を務める。東京での個展のほか、郷里北上市の鬼の館で二人展(03年)、新潟でも新潟絵屋(03、04年)、画廊Full Moon(04年)で2人展・個展で発表。2011年1月31日脳梗塞のため死去、81歳。アトリエでの葬儀では沢山の自画像が飾られた。

私たちは砂丘館の自主事業を応援しています。

新潟日産自動車株式会社

中興ありれ株式会社

NSGグループ

株式会社ナレッジライフ

新潟ビルサービス

創業明治11年
丸屋本店

郷土の文化に親しむ会

藤田金属